

エルサルバドル政治経済月報 (2022年12月分)

2023年1月
在エルサルバドル大使館

内政

1. 公共事業の実施における融資契約特別法の可決（エルサルバドル国会プレスリリース）

11月30日、当国国会は、公共事業の実施に際して融資契約を可能とする特別法を可決した。同法は、橋、道路、港、空港、ダム、水供給施設、排水溝、鉄道網等の建設の際に適用され、融資契約の形態をとることで、民間セクターの参加を得つつ、必要かつイノベーティブな事業を行うことを可能とするもの。

2. サンチェス・セレン前大統領の財産差し押さえ（報道：エル・ムンド）

12月1日、当国検察庁は、マネーロンダリングや横領等の罪で逮捕状が出ているサンチェス・セレン前大統領の財産を差し押さえた。今回、差し押さえの対象となったのは、ラ・リベルタ県サンタテクラ市ウティラ区に位置する住宅2軒、乗用車3台、そして総額127万5,107.41ドルが保有されている銀行口座2口である。なお、サンチェス・セレン前大統領とその家族はニカラグア国籍を取得し、同国に亡命している。

外交

1. 第56回 SICA 首脳会合（報道：ディアリオ・エルサルバドル）

12月9日、ドミニカ共和国で第56回 SICA 首脳会合が開催され、エルサルバドルからブケレ大統領の名代としてウジョア副大統領が出席した。同首脳会合において、エルサルバドル政府は中米統合プロセスに対するコミットメントを強調し、「共通の家（una casa comun）」という夢の実現のために、中米連合（UNCA）設立に係る条約案を提出した。またウジョア副大統領は、SICA の改革の重要性を強調するとともに、同機構の憲章であるテグシガルパ議定書の改定の必要性を指摘した。

2. 第88回 SICA 外相会合（外務省プレスリリース）

12月9日、ヒル外務大臣は、ドミニカ共和国で開催された第88回 SICA 外相会合に出席した。同外相会合にてヒル外務大臣は、中米諸国の国民の発展のための重要機関である SICA の改革を前進させるよう各加盟国に呼びかけた。

3. 米国上院によるダンカン次期駐エルサルバドル大使の承認（報道：主要各紙）

12月13日、米国上院は、2022年2月に次期駐エルサルバドル大使として指名されていたウィリアム・ダンカン氏の人事を承認した。なお、2021年1月20日にロナルド・ジョンソン前大使が離任して以降、これまで4名の臨時代理大使がエルサルバドルとの外交関係を担った。ダンカン氏は駐エルサルバドル大使に就任するにあたり、民主主義、人権、エルサルバドルにおける汚職問題及び非正規移民問題にコミットしていく旨米議会で表明した。

経済

1. 2023年及び2025年償還国債の第二回早期償還（報道：エル・ムンド）

エルサルバドル政府は、2023年及び2025年満期の国債の二回目の早期償還において、8,220万ドルを早期償還希望者に支払うとした。この額は当初予定していた7,400万ドルよりも大きい数値となっている。なお、一回目と二回目の早期償還により、2023年分は残り6億410万ドル、2025年分の国債は残り3億4,810万ドルとなった。

2. クリスマスポーナスに対する所得税免除（報道：エル・ムンド）

12月7日、当国国会は、1,500ドルまでのクリスマスボーナス（Aguinaldo）にかかる所得税を免除とする法案を可決した。エルサルバドル国民は、2023年の税申告の際に2022年に受け取ったボーナスを「非課税」区分に登録することで所得税が免除される。財務省により提案された同法案は56万1,000人の労働者に所得税免除の恩恵をもたらす一方で、当国政府はクリスマスボーナスで徴収を予定していた約500万ドルの税収を失うこととなる。

3. 年金制度改革法案の可決（報道：主要各紙）

(1)12月20日、当国国会は、年金制度改革法案を可決した。これにより、1998年以降有効であった現行の年金貯蓄制度（SAP）は廃止され、年金受給額が2,300ドル/月までの受給者の受け取る年金額が30%程度引き上げられ、老齢年金の最低受給額が現在の304.17ドル/月から400ドル/月となる。また、ごく一部の人のみが受給していたいわゆるVIP年金は廃止となり、年金受給の最高額が3,000ドル/月に抑えられることとなった。

(2)本法可決を受け、ブケレ大統領は、本年金改革によって現在老齢年金を受給している世代や若い世代の将来的な年金受け取り金額が引き上げられる点、また年金受給開始年齢の据え置き、積立金の取り崩しを行っていた者が再積み立てをしなくても年金受給できるようになる点等、各種改革のもたらす恩恵につき自身のツイッター上で発信した。

(3)一方で、「ディアリオ・デ・オイ」紙や「ラ・プレンサ・グラフィカ」紙といった反政府系新聞は、受取金額が2,300ドル/月までの受給者の年金受け取り金額を一律30%引き上げることは、所得水準の低い人ではなく、所得水準が高い人を利するものであるとして批判を展開した。また、年金受給額の引き上げにおいて、障害年金受給者等が除外されていること、また積立金の取り崩しを行い、その後再積み立てを行っていない者は受給額の引き上げの対象外となっている点につき指摘し、不公平であると批判した。

4. 2023年国家予算の可決（報道：主要各紙）

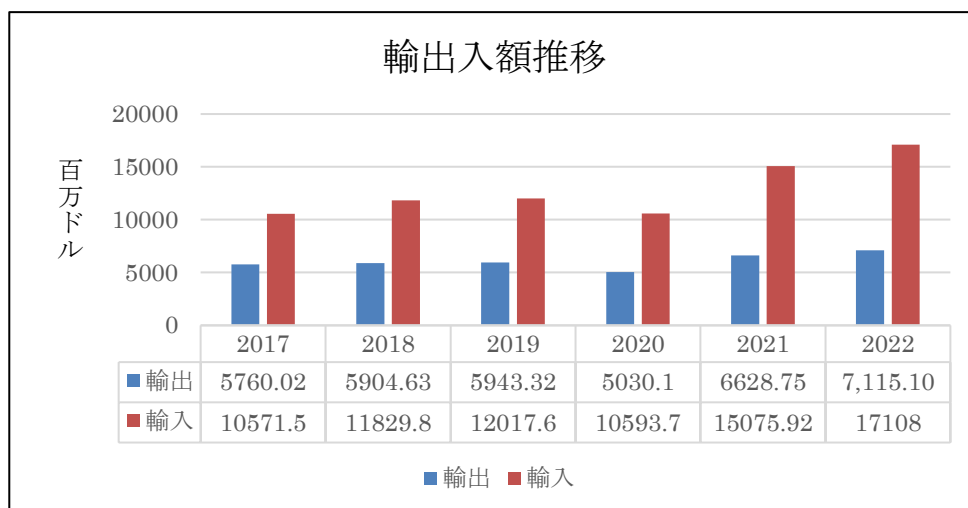
12月22日、当国国会は賛成67票（反対12票、棄権0票）で2023年国家予算案を可決した。予算総額は対前年比11.7%増の8,902,653,672ドル（前年比11.7%増）となった。2023年予算では、教育分野にエルサルバドルのGDPの約5%、本予算の約17%に相当する約15億ドルが充てられるほか、1億8,300万ドルがガブリエラ大統領夫人の推進する幼児教育プログラムに充てられる。また、2023年予算には、ARENAやFMLN政権期に横行していた政治家及び政党と関連のあるNGO団体に対する助成金等の支払いが含まれていない。

5. 燃料の固定価格化の終了（報道：エル・ディアリオ・デ・オイ）

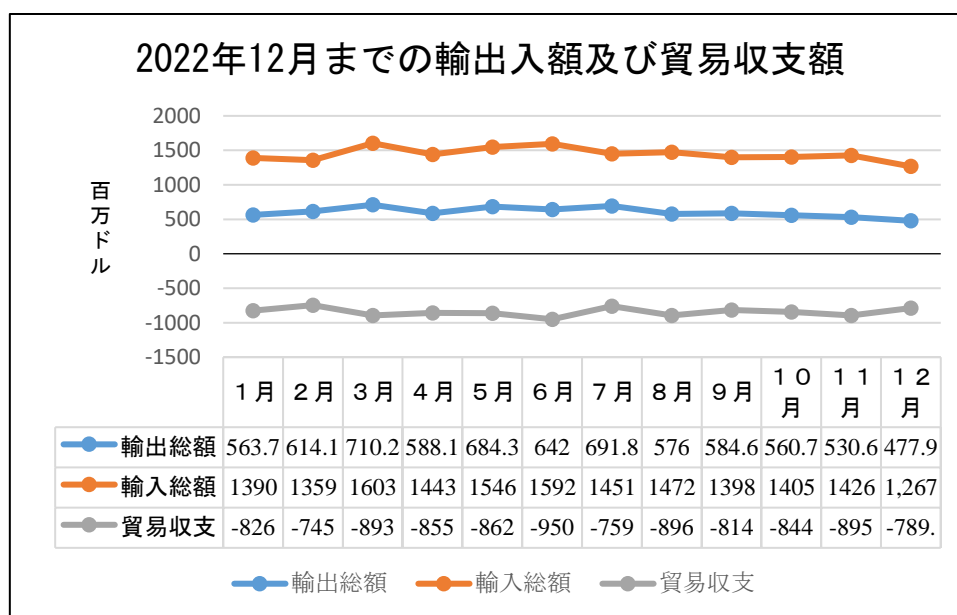
12月26日、当国経済省は2022年4月より約9か月にわたり延長されてきた燃料の固定価格化政策を、12月31日をもって終了とする旨発表した。これにより、ガソリンや軽油等の一般的な燃料の固定価格化は終了となるが、LPG等のガスに関する補助金は、容器に詰める業者等に対して直接支給する形で2023年2月28日までは継続することとなっており、8,290万ドルが財務省から支出される見込み。

6. 貿易総額

・2022年の輸出総額は71億1,115万ドル（前年比7.3%増）。輸入総額は171億80万ドル（前年比13.5%増）となった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

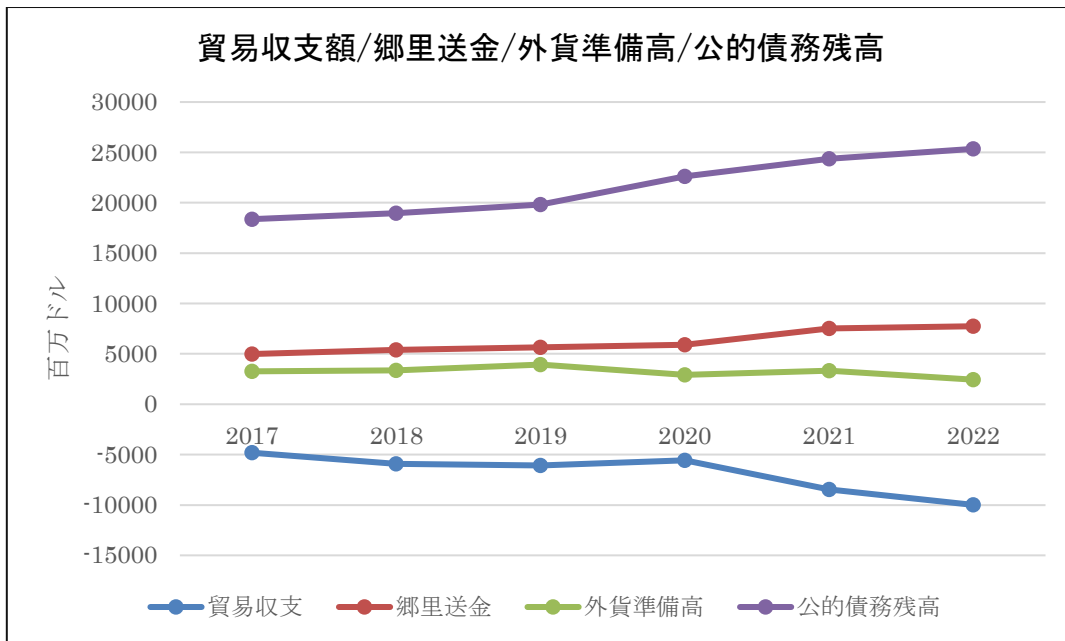


（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

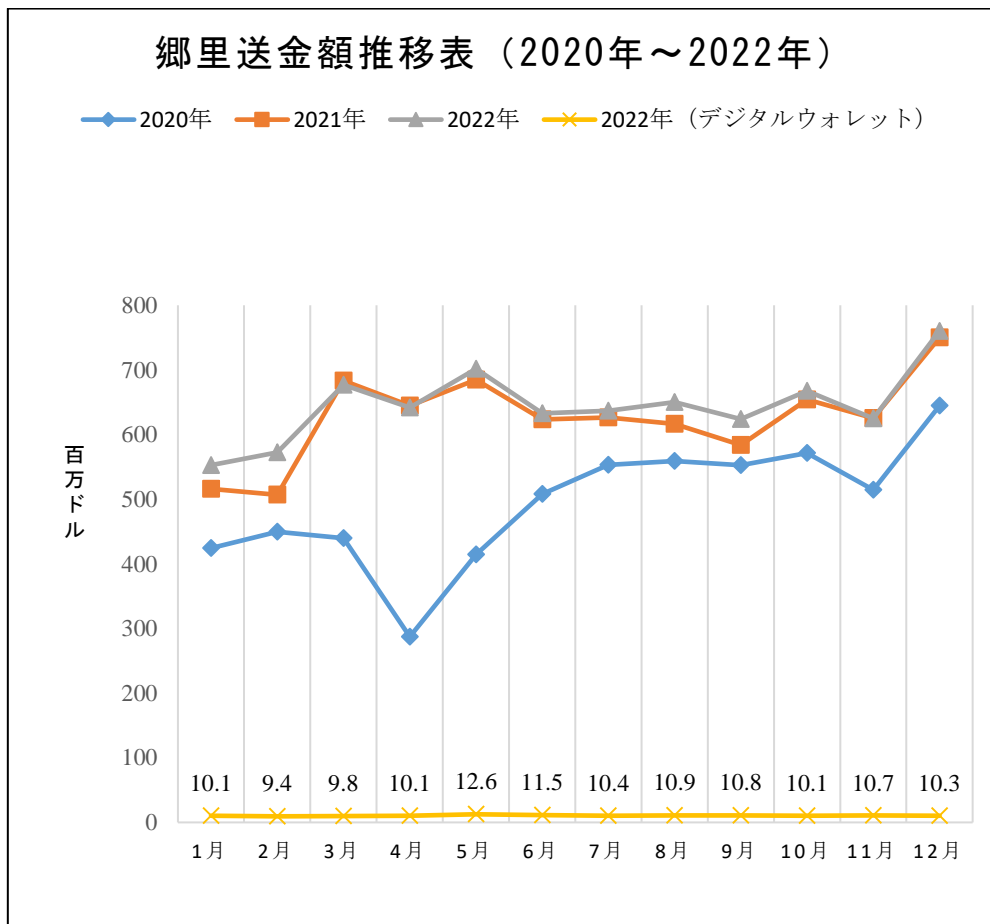
7. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

・2022年度の貿易収支額はマイナス99億9,290万ドルとなり、前年より赤字額が17億7,040万ドル拡大した。

・2022年の郷里送金額は77億4,200万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の93.8%（72億6,570万ドル）を占めた。なお、



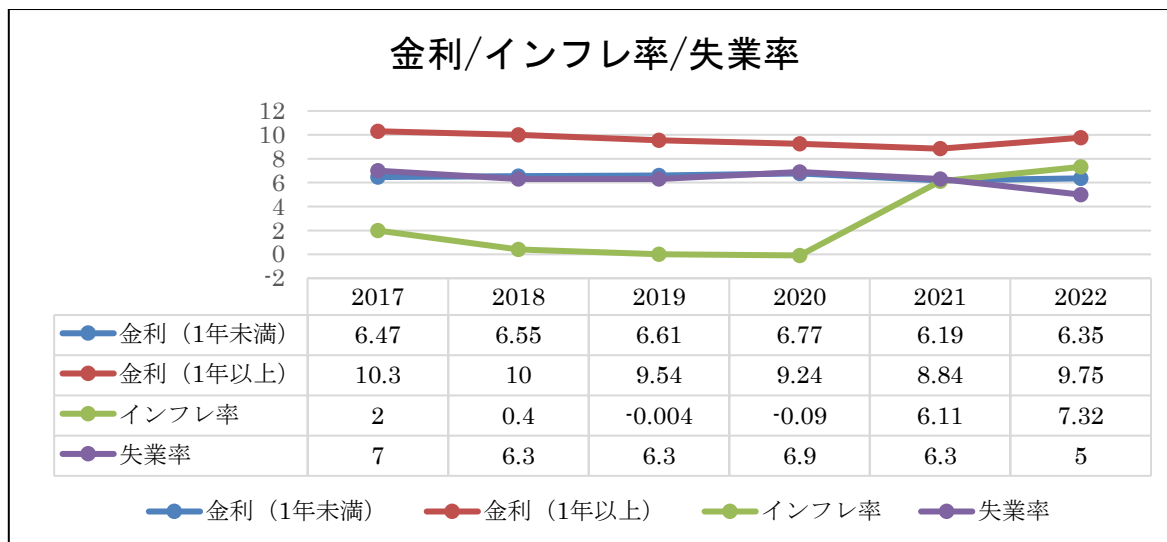
(エルサルバドル中銀データをもとに作成)



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

8. 金利・インフレ率

・2022年のインフレ率はプラス7.32%であった。また2021年のインフレ率はプラス6.11%であった。2022年の失業率は5.0%であった。



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

治安

1. 例外措置体制の期間延長等 (報道：主要各紙)

12月14日、当国国会は、例外措置体制の9回目の期間再延長を承認した。ビジャトロ司法・公共治安大臣は、「9か月足らずの間で、我々は国土の統制を完全に取り戻した、平和で自由で穏やかな国を実現する」と述べた。本件措置によって、これまで60,000人以上のギャング関係者が拘束され、銃器1,900丁以上が押収された。

2. 11月の殺人件数 (報道：ディアリオ・エルサルバドル)

(1)2022年11月の殺人件数は13件で、これまでの年と比較して最も安全な月となった。ビジャトロ司法・公共治安大臣は、「このうち、未解決事件は1件もなく、犯人は全て拘束されている」と述べた。ブケレ大統領は、「11月の殺人件数を年率換算すると、人口10万人あたり殺人件数は年間2.5人である」と、ソーシャルネットワーク上で述べた。

(2)歴代の直近4つの政権によって実施された治安計画は、殺人を根絶しないどころか、20年間で7万人以上の死者を出したが、現政権では大幅な減少となった。例年、年間の殺人件数は、3,000~4,200件程度であったが、2019年以降、当局は殺人事件の減少を実現しており、2020年の殺人件数は、2019年の2,383件と比較して50パーセント減少した。これまでのところ、ブケレ政権は2021年をエルサルバドル史上最も安全な年にすることに成功しており、2021年の殺人件数1,140件は、2020年の1,341件よりも15パーセント少ない記録となった。

(3)当局は、エルサルバドルにおける犯罪の減少を、犯罪地域コントロール計画と例外措置体制の成果であるとし、どちらの戦略もギャングの犯罪行為を未然に防いでいるとしている。当局の報告によると、例外措置体制が発効された3月27日から11月24日までの殺人件数は1日平均0.68件であり、1日に殺人件数が30件もあった例年と比べると大きく減少している。このままいけば、今年には国内で最も安全な年となる可能性がある。メリーノ国防大臣は、「2022年の人口10万人当たりの殺人件数が10件になることで、エルサルバドルは大陸で最も安全な国として位置づけることになる」と述べた。

3. 犯罪地域コントロール計画第5フェーズ「摘出」の成果 (報道：ディアリオ・エルサルバドル)

(1)11月29日、国家文民警察は、サンタアナ県の様々な自治体でMS-13(マラ・サルバトルチャ)、18S(スレーニョス)のギャングを50人以上拘束した。また、コカイン700,400ドル相当及び携帯電話を数台押収した。

(2)サンサルバドル県ソヤパンゴ市で、ギャングメンバー140名以上が拘束された。これは、同市の様々な通りや地域に国軍や警察が配備され、家、車及び通行人を検問することによって行われた。

(3)12月24日、サンサルバドル県トウトウニチャパ地区とラ・グランヒタ地区で、ギャングメンバー23人以上が拘束され、銃器、大麻、コカイン及び現金10,000ドル以上が押収された。トウトウニチャパ地区は、古くから麻薬密売で有名であり、18Sは犯罪活動の資金源として同地区の麻薬販売を管理していた。

【観光地等における危険度レベル】

レベル1:十分注意区域	レベル2:不要不急の渡航中止区域
国立ダビッドJ・グスマン人類学博物館(MUNA)	サンサルバドル旧市街
ティン・マリノ児童博物館	平生三郎公園
エルサルバドル美術館(MARTE)	プエルタ・デル・ディアブロ
プレシデンテ劇場	
サンサルバドル近郊のゴルフ場	
ベンゴア球場	
サンサルバドル市国立民芸品博物館	
クスカトラン・スタジアム	
サンサルバドル火山	
カフェタロン・フットサルコート	
ラ・リベルタ県のビーチ	
イロパンゴ湖	
サンタテクラ旧市街	
コアテペケ湖	
セロベルデ自然公園	
エル・ピタル山	
ラ・パルマ市	
サンタテレサ温泉	
ステト旧市街	
サンアンドレス遺跡	
タスマル遺跡	
カサブランカ遺跡	
サンタアナ旧市街	
オロメガ湖	
エル・ホコタル湖	
サンミゲル市	
オロクイルタ市	

	窃盗	強盗	傷害	殺人	行方不明者	恐喝	車両盗難	車両強盗	強姦	交通事故死	誘拐
2022年11月	546	134	239	14	35	104	59	10	203	117	0
2022年12月	637	173	280	14	36	116	42	7	182	158	0

